

血液・造血器疾患

科目責任者 今 井 陽 一
学年 6 学年

I. 前 文

本講義で取り扱う血液学の主な対象は、①造血器（骨髄，リンパ節，脾）およびそこで産生される血球（赤血球，白血球，および血小板）とその異常，②止血機構（各種凝固因子の他，前項の血小板も含まれる）とその異常，および③細胞療法（輸血及び造血幹細胞移植）とに大別される。①と②の異常は通常血液疾患と呼ばれる。③の知識は血液疾患などに対する内科的治療のほか，外科手術にも必要とされる。

血液内科学は臨床の分野で最も早く分子生物学が導入された領域であり，その技術が診断（遺伝子診断）・治療（分子標的療法，免疫療法）に応用されている。これらの最先端の知識についても解説する。

II. 担当教員

教授 今 井 陽 一 内科学（血液・腫瘍）
准教授 佐々木 光 内科学（血液・腫瘍）
講 師 中 村 由 香 内科学（血液・腫瘍）
准教授 佐 藤 雄 也 小児科学

III. 学修の到達目標

国家試験問題に取り組むための基本的知識を身につけることを到達目標とする。

IV. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

求められる事前学習：系統講義の資料を復習する（4h）

求められる事後学習：過去の I 卒の試験問題を解く（4h）

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）

2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他 空欄：該当なし）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	14	火	2	血液・造血器疾患（リンパ系疾患）	内科学（血液・腫瘍） 今 井 陽 一	6
2		14	火	3	小児の血液疾患	小 児 科 学 佐 藤 雄 也	6
3		14	火	4	血液・造血器疾患（貧血）	内科学（血液・腫瘍） 佐々木 光	6
4		14	火	5	血液・造血器疾患（白血病）	内科学（血液・腫瘍） 今 井 陽 一	6
5		14	火	6	血液・造血器疾患（出血・血栓性疾患）	内科学（血液・腫瘍） 中 村 由 香	6

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（90%）、出席点（10%）

Ⅶ. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

必修-7-F-①②③, 8-D-⑤, 9-G-①②③, 9-J-①②, 12-G-①②③④

総論-III-6-A-①②③④⑤⑥⑦⑧⑨, 10-A-①②, B-①, C-①②③, D-①②③④⑤⑥, V-6-B-①②③, VI-6-A, B-①②, C-①②, D-①②③, E-①②, VIII-1-B-①②③④⑤⑥, D-⑫, E-③④⑦⑧⑨⑩⑪, G-⑥⑦, H-①②③④, IX-2-F-⑦⑧⑨, 3-B

Ⅷ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

Ⅸ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説する。